

質問

抗がん剤治療をする、口にはどのような副作用が出ますか。また、その予防法を教えてください。

抗がん剤口への副作用は



岡本 知美

徳島大学病院  
医療技術部  
主任歯科衛生士

回答

抗がん剤治療中に起る口の副作用は、口内炎、口腔乾燥、味覚異常、細菌やウイルスによる感染などが挙げられます。抗がん剤治療による口腔トラブルは40～80%と比較的起りやすいと言われていいますが、残念ながら口腔トラブルを完全に防ぐ方法は今のところ確立されていません。

しかし、あらかじめ準備したり早めに対処したりすることで、症状をうまくコントロールすることが可能です。口の中に副作用が起るリスクを下げ、少しでも症状を和らげるためには、口の中を清潔に整った環境にしておく「口腔ケア」が有効であることがさまざまな研究で報告されています。

口腔ケアといっても特別なものを感じるわけではなく、セルフケアで行え

口内炎など40～80%発症



ることがほとんどです。まず、口の中の状態を毎日観察してみてください。普段の口の中の状態を知っておくことで、治療による口の中の変化に気づきやすくなります。

セルフケアのポイント  
は、歯磨きはできる範囲

がん何でもクイズ

がん細胞は一日でどれくらい出来ているでしょうか。

- ①10個②100個③1000個以上

行こうよ！がん検診

で丁寧に清拭に保つこと、小まめにうがいを行い保湿をすることで。また、口に副作用が現れたときには保湿と保温に加え、痛みをコントロールすることが基本になります。口内炎による痛みがある場合には痛み止めが入ったうがい薬や、口腔粘膜保護剤とい



エピシル®口腔溶液

ケア用品で痛みを緩和

これから治療が始まるという場合は、歯科を受診して口の中の状態のチェックやクリーニング、セルフケアの指導を受けましょう。口の健康はがん治療を支えます。口腔トラブルが発症してから対応するのではなく、治療が開始される前から口腔管理を開始することが、がん治療の質の向上につながると思います。

つたもので痛みを和らげることができます。

2018年に発売されたエピシル®口腔溶液は、口腔粘膜をケル状の膜で保護するもので口内炎の疼痛緩和に効果的です。保険治療で使用することができ、当院でも必要に応じて処方されています。その時々状態に合わせて、どのような口腔ケア用品を使用したらよいか、どのような口腔ケアを行ったらよいか、ぜひ歯科衛生士に相談してください。

がんに関する質問は  
徳島がん対策センター  
電話088(634)6442  
(平日午前8時半から午後5時まで)へ。

